

学友会東京支部だより

南高

発行 和歌山県立南部高等学校

学友会東京支部

事務局 〒160-0014

東京都新宿区内藤町1-33-103

TEL 03-5919-2180

FAX 03-5919-2181



現状と今後の取り組み

和歌山県立南部高等学校 校長 神藤 恭光



学友会東京支部だより第19号発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

最初に、最近の南部高校の現状をお話しします。まず、入学状況です。普通科では、地元みなべ町からはこの3年間で15%~25%のニーズしかなくなってきているのが現実です。ところが、普通科志向の傾向もあり、みなべ町以外から約1クラス数程度のニーズがあります。令和4年度で普通科が各学年2クラスに揃いますが、今後さらに子供の数が減っていく中で、地域の志望状況を鑑みながら普通科のクラス数減を頭に入れておく必要があると考えています。食と農園科では、3クラスの募集で1クラス程度の生徒しか入学していないのが現実です。その中で、生徒の傾向として、様々な課題を抱えた生徒を受け入れなければならない状況が続くと予想されます。そのため、特別支援教育の充実や生徒支援に重点を置いた教育活動の展開と農業の専門性を生かした魅力ある実践的な教育活動を両輪で展開する必要があると考えています。

このような状況の中で、普通科は、現在2年次から進路を見据えた選択科目により、進学系、医療看護系、総合系に分かれて学習をすすめる、様々な進路希望に対応する学習内容にしていますが、普通科では、70パーセント程度の生徒が就職希望になっているのが現状です。このことをふまえ、令和4年度入学生の2年次にデュアルシステムを導入し、学年に20人ではありますが、選択科目に「デュアル基礎」2単位、「デュアル総合実習」6単位を取り入れ、地域企業と連携して、「地域で働ける人を育てる」という趣旨で実施を計画しています。また、商業科目等で資格取得ができるように選択の幅を広げたいとも考えています。地元の中学生に志望してもらえ魅力ある学習内容を提供できるよう今後も検討を進めていきたいと思っています。

また、県内に残り、地域・県を支える若者は、専門学科の生徒の割合が圧倒的に多いといわれています。専門学科はその育成を担っていますが、不本意入学、目的意識の持たない生徒の割合が多く、志願



トウモロコシの栽培



パン製造

者も減少傾向にあります。そのため、食と農園科では、特別支援教育の充実や生徒支援に重点を置いた教育活動の展開と農業の専門性を生かした実践的な教育活動を両輪で展開する必要があります。そこで、食については、新実習棟を活用し、令和4年度入学生から20名程度の調理師免許取得コース（調理コース）を立ち上げ、資格取得をすることで食に関する職業に対する興味・関心を高め、関連産業への就職を促していきたいと考えています。また農業科において、和歌山県農林大学校と連携し、5年間一貫教育を考えており、生徒の進路選択が広げられる取り組みを進めています。

さらに、来年度から、新しいカリキュラムが始まり、農業に興味・関心があり、将来農業従事者として取り組みたいと考えている生徒に対し、特色を出す内容を考えています。

今後も生徒一人一人のさらなる成長と本校の一層の発展のために精一杯取り組んで参ります。また、令和4年度入試からは、紀北農芸高校と南部高校において、県内特別推薦、全国募集が始まります。全国募集については学友会の皆様には一層のご協力をお願いすることになると思っています。どうかよろしくお願いいたします。



梅収穫



※デュアルシステムとは・・・“学校で学ぶこと”と“企業や事業所で学ぶこと”を並行して行うシステムです。内容は、週に1回、一日中（6時間程度）、1年間連携実習先にて仕事をさせていただきながら“働くこと”について学ぶこととなります。



南部高校への通学と学びの思い出

榎本 町代

(みなべ町晩稲 在住)

1973(昭和48)年卒

南部高校に入学してから、既に半世紀が過ぎた。皺も深くなり老いてきたが、気持ちの上ではそんなに時が経過したとは思えず、うら若き頃の姿がまざまざと浮かんでくる。

私は、清川、高城、上南部の三つの村が合併して「南部川村」になったその年、南部川村高野に生まれた。幼い頃は海を見る機会も少なかった。祖父に連れられて田辺へ行く途中、祖父が汽車の窓から見える海を指差して、「町代、海だよ。見てみい。」と言い、海を眺めたことをなつかしく思い出す。

高校へはバスで通学した。私より幾つか上の学年の人たちは、男女とも自転車で通学していた。家のすぐ前を通るバスもあったが、それは便数も少ないので、龍神から下ってくるバスに乗るため、滝「通称轟（どろ）」のバス停まで十分ぐらい自転車で行って、そこから乗った。

当時、通学のみならず通勤もバスを利用する人たちが多かったので、滝で乗る頃には座れる席もなく立ちっぱなしのことも多かった。雨の時は、上南部地区の子たちも乗ってくるので満員になったものだ。

道路も今のように舗装されてなくてこぼこだった。また、道幅も狭く対向車があると、車掌さんが笛を吹きながらバックを誘導させていた。車内に空調設備があるはずもなく、夏場は窓を開けているので土埃が舞い上がり、座席の上の方が白くなっていることもあった。

土曜日は授業が終わってもすぐに帰れるバスの便がなく、お腹を空かせながら待たねばならず、徒歩や自転車通学の人たちがうらやましかった。雨の時は、家の前を通る便に乗ることもあったが、そうすると、帰りは滝のバス停で降りて半時間ぐらい歩いて帰らねばならなかった。

三年間、このように僻地からの通学ゆえ苦労したが、学校に着けば多くの仲間とともに学ぶのが楽しくて、また健康にも恵まれ欠席はほとんどなかったように思う。

私が在籍していた頃は、普通科、農業科、園芸科、家政科、保育科とA組からI組まで九クラスあり、三学年合わせると千人以上の生徒が学んでいて活気があった。

体育の授業は厳しく、逆上がりや蹴上がり（男子）ができないと、土曜日の放課後に補習を受けねばならなかった。私は運動が得意ではなかったが鉄棒は意外にできたので、補習は一度も受けることがなかった。校内マラソン大会は、鹿島神社前をあえぎながら走ったのを思い出す。体育祭でフォークダンスを踊ったのも心ときめいた楽しい思い出の一つだ。

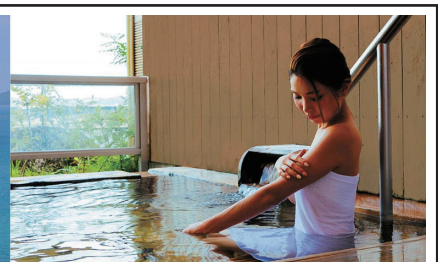
私の誕生後五十年を経て、南部町と南部川村が合併されて、「みなべ町」となり、また時代は大きく変わった。龍神から旧南部町までの道路の舗装も進み、トンネルが作られ蛇行していた道はまっすぐに拡幅され、旧南部町に出るのもずいぶん速くなった。

時は容赦なく過ぎ去ったが、南部高校への通学、ともに学んだ仲間、先生方、教室等々、あの頃のまま忘れ得ぬ大切な思い出である。

現在も私はみなべ町に住んでいる。みなべ町に住んでいながらみなべ町について知らないことも多い。幸いに、町の観光協会の方々や町の歴史や遺跡、地形、偉人などについて、講師を招いての紹介や現地案内して下さるので、それらのセミナーにも積極的に参加している。そして、遅蒔きながら「みなべ町」についての知識を深めている。



昭和40年ごろの龍神バス



海を楽しむ宿 南紀・みなべ温泉

国営企業 紀州路 **みなべ**

〒645-0004 和歌山県日高郡みなべ町埴田1540

TEL. **0739-72-3939** (代表)

<http://www.kishuji-minabe.jp/>



第二の故郷 鹿児島

竹内 宏

(鹿児島市 在住)

1975(昭和50)年卒

昨年東京支部に入会させていただいた竹内宏と申します。初めての寄稿なので自己紹介を兼ねて、なぜ鹿児島が私の第二の故郷になったのか、その経緯を書かせてもらいます。

1984年に東京外国語大学の修士課程を修了し、大学のドイツ語教員として就職を考えたとき、一つの方針を立て、首都圏ならば国公立を選ばず応募、地方に出るなら、できれば東京より南西の、海のある県庁所在地の国公立に条件を絞りました。その際、何となく九州が魅力的だと感じておりました。大学院在学中の1980年秋、通訳のアルバイトで東京のテレビ局と、外語大大学院生3人が交代で全国を回るウィーン少年合唱団の日本ツアーに帯同した(私は合計34泊)のですが、11月、鹿児島に2泊した際、この町、特にそのナイトライフがたいへん楽しく、ここで暮らすのも悪くないと感じたのです。そういうわけで、鹿児島大学教養部(当時)の公募で私を選んでくれた1986年10月、「都落ち」などという意識は皆無、勇躍当地に赴任したのです。

当時鹿児島市の人口は約50万(「平成の大合併」等を経て現在は60万)、まだ九州新幹線全線開通の25年前で、中央駅(当時は西鹿児島駅)周辺は閑散としていましたが、町全体としては、みなべ育ちの私にとって相当の大都市で、南九州随一の繁華街天文館(薩摩藩主・島津重豪が1773年に開設した天文観測施設に由来)をはじめとして、賑わっている街区がいくつかあります。海、山、川、湖と自然にも恵まれ、無数にある銭湯(当時の料金は90円程度)はサウナ付きの天然温泉でした。さらには、水産県・畜産県の鹿児島は食のレベルが高く、黒豚や地魚など手軽に美味しい食材が手に入ります。赴任後7～8年でインターネットの時代になり、情報アクセスも不便を感じなくなりま

した。年に3回程度訪独・訪欧する私にとっては空路のアクセスも重要ですが、朝8時鹿児島空港発で例えばフランクフルトなら同日の16時前後には到着、便数も多いのでほとんどハンディを感じません。文化的には、オペラや芝居こそ、さすがに東京や大阪のようなわけにはいきませんが、音楽教育の盛んな土地柄、コンサートやリサイタルは頻繁に開催されます。映画館は多数あり、単館系のシネマも頑張っています。

こういうわけで、首都圏ないし関西圏の有力大学に移ろうという野心は、数年で失くしてしまいました。地元出身の伴侶を得、こちらに家を建てて23年になる今では、皆無とは言えない地方都市の欠点は無視して、こちらでの生活をできる限り楽しむようにしています。年月を重ね、大学教員としての現役生活も今年3月限りとなりました。

「研究者」と称するには私はあまりにも怠け者ですが、ドイツ語に関してはこの36年弱、授業以外にもありとあらゆる仕事をこなしてきました。おかげさまで、語るべきエピソードに事欠かない、楽しい人生を送ることができています。これについては、いずれご披露する機会があるでしょう。



桜島を背景に



梅をつつむ贅
幸つみ
『黄金漬』をやわらかな道東産の樟前昆布で
つつんだまろやかで旨味豊かな梅干しです。



元祖はちみつ梅
黄金漬
選りすぐりの紀州南高梅とはちみつが
醸したす、まろやかで上品な梅干しです。

梅
はん

通信販売カタログ・商品のお問合せ、お求めは

フリーダイヤル 0120-197-832 FAX フリーダイヤル 0120-319-515

受付時間 平日/午前8時～午後6時 土曜/午前8時～午後5時

FAXおよびホームページでは24時間、受け付けております。

株式会社梅一番井口 和歌山県白高郡みなべ町西本庄1224

<http://www.ume1.com/>





湯川氏と泊城



畑崎 恒定
(みなべ町堺 在住)
1977(昭和52)年卒

中世において、紀伊国の在田(アリタ)、日高、牟婁三郡を支配し、室町将軍奉公衆として活躍した湯川一族の拠点となった地の一つが田辺市芳養にかつて存在しことはあまり知られていない。文献的にも考古学的にも推定の域を出ないものであるが、一昨年の大河ドラマ「麒麟が来る」で注目された時代であるだけにもっとスポットライトが当たってもおかしくないと思うのである。

私もこの芳養地区と隣接するみなべ町堺という地域で60年あまり生活してきた。現在も頻繁に芳養を通して田辺市と行き来している。しかし、そのような場所に室町幕府将軍や湯川一族に関わる地がある事は数年前まで知らなかった。今回この紙面をお借りして、室町幕府および湯川一族に関する逸話を皆様にご紹介したい。

国道42号線をみなべ町から田辺市に入っすぐ芳養町大屋地区がある。この地区には舌状の丘陵地が海岸線まで延びており、現在は国道42号線大屋トンネルによって貫通されている。その丘陵地に湯川一族が拠点としたと泊城(トマリジヨウ)とよばれる山城が中世末期まで存在したとされている。

室町幕府は16世紀後半にはすっかり形骸化し、15代将軍の足利義昭は、有力な戦国大名の武力を借りて幕府を復権させようと北陸、畿内各地を転々としていた。その室町将軍に急接近してきたのが、尾張の新興戦国大名織田信長である。

足利義昭は織田信長の庇護を得てその武力を背景に永禄十一年(1568)上洛、念願であった京都において室町幕府の再興を果たし、自ら征夷大將軍に就任した。しかし、将軍義昭と信長の関係はほどなく悪化に転じ、ついに天正元年(1573)、義昭は信長に反旗を翻し挙兵に至った。結果、義昭は信長によって敗れ去り京を追放され、室町幕府は事実上滅亡した。

京を追放された義昭は幕府再興をめざして各地を流浪する。河内若江、和泉堺、由良興国寺を転々とし、紀伊三郡の長、湯川直春を頼って泊城に落ち着いたとされる。泊城で約一年余滞在した後、義昭は幕府再興の野望を継続し、中国地方の大大名毛利氏をたよって備後の国、鞆の浦へと去って行った。

将軍義昭が去った後の泊城および湯川氏の去就はどうなったのだろうか。天正十年(1582)の本能寺の変で織田信長が家臣明智光秀に討たれた後も、湯川氏は在田以南の地域で勢力を維持しつづけた。信長亡き後、混沌とした覇権争いの中、天正十二年(1584)羽柴秀吉と徳川家康による小牧長久手の戦いが行われ

た。この戦で大阪一帯を留守にし、戦力を小牧長久手に集中させていた秀吉の隙を突いて大阪南部に攻め込んだのが雑賀一向宗、根来寺、さらに湯川一党たちであった。秀吉と家康の和睦がなった後、自分に刃向かう紀州一帯の勢力に対する報復として、翌年、秀吉は大規模な紀州攻めを行った。秀吉は十万を超える軍勢を紀北、紀南に差し向けた。湯川氏はたまたま拠点としていた御坊の亀山城、田辺の泊城を捨てて牟婁奥郡へと落ちていった。その後は山本氏、玉置氏など牟婁郡の国人地侍勢力と共にゲリラ戦を展開し、羽柴軍によく抵抗したとされるが、多勢に無勢、ついに羽柴軍に対し降伏するに到った。しかし、一説によれば、戦後、湯川直春は天正十四年(1586)、湯川氏の新しい主人となった秀吉の弟羽柴秀長に挨拶するため大和国の郡山城に伺候したところ毒殺されたとも伝えられている。このように秀吉による「紀州攻め」は紀伊国の中世を終焉させ、近世を用意したエポックメイクな出来事として人々に記憶されるが、同時に紀南の三郡を支配した雄湯川一族も歴史の表舞台から去る結果をもたらした。湯川一族家臣団は紀州一帯に四散していったとされる。

難治の国といわれた紀伊。他国のように戦国大名が成長することなく一円支配が実現されることがなかった紀伊。高野山、根来、一向宗などの宗教勢力や湯川氏をはじめとする国人地侍勢力が割拠した紀伊。中世権力の時代は終わりを告げ、浅野氏や紀伊徳川氏支配へと続く近世の幕が開いたのである。

現在、泊城があったと推定される芳養の大屋地区は、国道42号線北進バイパス工事が行われ、その姿を一変させている。かつてこの地域には湯川氏が泊城を築き牟婁郡一帯に勢威を張った名残は見るすべもない。

しかし、たとえ歴史の一時期とはいえ室町将軍、湯川一族、羽柴秀吉等々の兵どもが権力争いを展開した夢の跡が、私たちの間近に存在したことを記憶の片隅にでも留めておいてもらいたいと思うのである。



泊城の跡 面影はない……



まだ教師やってます

畑崎 保男

(みなべ町南道 在住)

1971(昭和46)年卒

この原稿を依頼された時も職場にいた。電話相手と話しているうちに、このタイトルが思い浮かんだ。今年で教職45年目になる。私は学生時代を和歌山県奨学会東京学生寮で、都合5年間過ごした。当時の寮長は佐藤要三先生。田辺高校の校長退職後、上京して初代寮長になられた。その佐藤先生から「教材研究だけはしっかりやりなさい」との餞をいただいた。

最初に職を得たのが田辺高校若草寮の舎監であった。若草寮は3階建て。男子生徒と女子生徒が住んでいた。2階のトイレ側が女子生徒で、私の部屋を挟んで反対側に男子生徒がいた。自室での一番の思い出は、布団に足を入れたとたん激痛が走ったこと。気が付いたらムカデに足を噛まれていた。

教職3年目に南紀養護学校に赴任した。中学部4人の担任になった。筋ジストロフィーが進行していて車いすの子。脳性麻痺で文字盤を使って意思疎通する子。装具をつけて松葉づえを突いている子。装具を付けた靴を履いている子がいた。そのうちの2人は熱烈な阪神ファンで、野球の話ばかりしていた。3人目は物おじしない生活力のある子だった。もう一人の筋ジスの子は1年後に亡くなった。

次に新宮商業高校に赴任した。女生徒が7割いた。男子生徒は肩身が狭そうだった。当時はスカートの丈が長いのが流行していた。女性教師が物差しでスカートの床下を計測しているのに驚いた。

ある時、美術の先生のお宅にお邪魔した。そこで1冊のアルバムを見せられた。その中に可愛い

子がいた。「この子可愛いですね」と言ったら紹介してくれた。それが今の私の妻である。

結婚した年に父が亡くなった。翌年、田辺工業高校に赴任した。機械科を担当。男子生徒ばかり。これがまたやんちゃなクラスで1年間全員そろひがなかった。ほとんどがタバコと単車での家庭謹慎。巣ごもり生活で生徒の顔は真っ白になった。だが文化祭でミュージカル「キャッツ」をやらせたら、エネルギッシュな舞台を作り上げた。

次は熊野高校。その年の6月に、私はうつになった。前任校で自殺願望の生徒への対応で疲弊していた。現任校には、前年に起こった事件の余韻が残っていた。そして46歳という私の年齢と真面目な性格が、うつを引き起こした。教師には戦場の兵士と同じストレスがあると聞いた。いま教職にある方はご留意を。

だが、私が今も教職を続けられているのは、うつになったからだ。管理職から「教師は教壇に立つことが仕事だ」と言われた。主治医は「悪い時は出来なくても、良くなってから頑張ればいい」と言ってくれた。

一昨年、初めて母校の教壇に立った。1年A組26人のクラス。みんなおとなしかった。一人を除いて、あまり反応がなかった。最後の授業で全員に感想をと思っていたが、コロナで授業がなくなってしまった。残念だった。今は、もともと苦手だった教材研究が楽しくなった。そして現在の職場、南紀高校からは若草寮が見える。これが私の現在地である。



紀州五代梅



銀座店〈直営店〉
東京都中央区銀座8-2-10
誠和シルバービル1F
TEL 03-3571-5858

創業天保五年
株式会社東農園
0120-12-5310
<http://www.godaiume.co.jp>

「梅の里トレイルラン」に想いを馳せる

辻本 裕一
(みなべ町晩稲 在住)
1994(平成6)年卒



やっと開催できるかな～！？

3年ぶりの「梅の里トレイルラン」開催を決定したのは2021年10月でした。

トレイルランとは、山道や林道など主に舗装されていない、自然の中を走るアウトドアスポーツです。みなべ町では、2015年12月15日に「みなべ・田辺の梅システム」として世界農業遺産に認定された里山の自然を体感し、日本一の梅の里の魅力を知ってもらおうと、2018年にプレ大会を開き、2019年から本大会を始めましたが、昨年、一昨年と新型コロナウイルスの影響で開催を断念せざるを得ませんでした。その実行委員会の会長を私が務めさせていただいております。

小さいころからスポーツが大好きでした。野球にサッカー、マラソンと様々なスポーツをクラブ活動を通じて経験し、南部高校時代は硬式野球部に所属、春の選抜高等野球大会で甲子園にも2度(1992年、1993年)、出場させていただきました。大学(佛教大学)に進学してからも4年間、硬式野球部で活動しました。社会人になってからは野球以外のスポーツにもチャレンジし、30歳頃からフルマラ

ソン4時間切りを目指してランニングを始めました。トライアスロンにも挑戦し「世界一過酷なレース」とも言われているアイアンマンレースも完走しました。次の目標に定めたトレイルランに熱中し、それがきっかけとなり、今では主催者側でランナーをサポートするようになりました。

私が感じるトレイルランの魅力は「競わず、楽しんで、共にゴールを目指す!」、道が続いているかどうか分からない山の中を、一步一步踏み出す足場を瞬時に探りながら、自分自身と向き合い、自然と触れ合い、時には無になり(しんどくて何も考えられないだけ・・・笑)、休憩は、好きな時に好きな場所で、好きなだけ取り、仲間と共にゴールを目指す。何だか人生をギュッと短く凝縮させたようなスポーツだと感じるのです。そんな大好きなスポーツの1つであるトレイルランを、生まれ育ったみなべ町で仲間と共に開催できることは、私にとっては最高の喜びです。そしてこれからも、地域の仲間が共に力を合わせ、スポーツを通じてみなべ町の魅力を全国へ発信していければと考えています。

今はまだ学友会東京支部の皆さま方に「梅の里ト



SCS認証No.55113
2020年12月取得



一粒入魂[®]

紀南高梅

紀本州梅



南紀梅干株式会社
Nanki Umeboshi Co., Ltd.

〒645-0022 和歌山県日高郡みなべ町晩稲1225-5
TEL:0739-74-2055 FAX:0739-74-3175
www.nankiumeboshi.co.jp



梅のことなら
梅バンク

UmeBank[®]

コースマップ ショート（8 km） / ミドル（25 km）



レイルラン」の活動が届いていないかも知れませんが、もっともっと魅力をアピールして、いつの日かご参加いただけるような大会を目指し頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、コロナに負けず、いつでもどこにいても自分自身を奮い立たせるために「自分の勇気が足らん時、他人の勇気を見て創ろ!」、力を合わせ、コロナ禍を共に駆け抜けましょう。



日本一の梅の里「紀州みなべ」で 梅農家ならではの 梅作り体験をしよう！

日本一の梅の里・紀州みなべ梅林に隣接する、ぷらむ工房では、工場見学から、梅干し・梅ジャム・梅ジュース作りなど、さまざまな梅作りが体験できます。

通信販売・体験のご予約 **TEL 0120-39-2406**

WEB サイト <https://plumkoubou.jp/shop/taiken>

オンラインショップ <https://www.plumkoubou.co.jp>



わたしの家は梅農家・ぷらむ工房®

〒645-0022

株式会社 岩本食品
和歌山県日高郡みなべ町晩稲 1187 番地

鎌田池公園

熊本 茂美 旧姓:栗本
(田辺市 在住)
1978(昭和53)年卒

みなべ町東吉田に鎌田池公園があるのを知ったのは、約3年前の紀伊民報、「みなべ・龍神」紙面に掲載された蓮の花の記事を目にしたことがきっかけです。

植物は全般に好きですが、とりわけ蓮には心惹かれるものがあります。公園を探すのに少し迷いましたが、手作りの看板を見つけ、たどり着くことができました。

お目当ての蓮(写真1、2)は公園の一番奥にありました。

公園のお世話をされている松本さんに偶然お会いし、色々お話を伺うことができました。元々は農業用のため池だった所を高速道路建設に伴う残土で埋め立てた後に、グラウンドを整備し造成された、地元の有志の方々の手作り公園とのことです。

最初は蓮の花だけを見に年に一度行ってきましたが、母亡き後みなべのお墓参りに行く機会も増え、田辺でのルーティンワークまでの隙間時間にふと思いついたら、寄らせて頂いております。

夕方立ち寄ることがほとんどなので、たいていは静かな佇まいです。



植えられている植物は多種で、この辺りでは珍しいアーモンド(写真3)や胡桃(クルミ 写真4)、フェイジョア(写真5)シャリンバイなどの木もあり、桜、海棠(ハナカイドウ)、トキワマンサク、紫陽花(アジサイ)、泰山木(タイサンボク)、アガパンサス、ギボウシ、向日葵(ヒマワリ)、コスモス、皇帝ダリア、山茶花(サザン

カ)、椿、水仙など、四季折々いつひょっこり行っても何かしら見られますし、それぞれの植物の季節による変化も楽しめます。

公園の周りには多数の梅の木畑があり、二月頃は梅の花の香しさに心満たされます。

アーモンドや胡桃は既に食べられる状態のものしか知らないで、いつ頃収穫してどのように食べるのか、とても興味深いです。

今はスーパーマーケットやコンビニエンスストアに行けば何でもすぐ手に入りますが、子供時代はお風呂も薪で焚いていたし、お味噌やお茶やおやつも自家製でした。

遊び場は稲刈りの済んだ田んぼなどで、つまずきながらドッジボールをしたり、竹やぶの中で敷き詰めた笹の上を滑ったり、年齢や性別も関係なく近所の方たちと楽しく過ごしました。

鎌田池公園は、グラウンドも整備されているし、ベンチも置かれていて、植物園のようにも感じられるのです。

先日の発見は胡桃の木の根元に斎藤茂吉の歌が添えられていたことです。



胡桃の実まだやわらかき頃にして
われの病は癒えゆくらむか

夏バラ、秋バラ、冬バラというくらいで、最近は春先からずっと色とりどりのバラがこの公園では見られます。

晩秋からはこれまた多種の椿が順番に咲いていきます。咲いているところも美しいですが、地面に落ちた椿が敷き詰めているところも圧巻です。

公園の空きスペースには椿の挿し木がされていたり、鋏などの道具もたくさん置かれていて、手厚いお世話をされているものと察せられ、余程植物を愛しておられるのだろう、公園を大切に思っておられるのだろうと訪れる度にただただ頭が下がります。この公園は植物好きの私にとっても大きな癒しを与えてくれています。



ちどり梅



高級梅干し「慶びの梅酌」「黒糖の梅」を格式ある千鳥模様に詰め合わせました



卸部門



0120-10-3682

〒143-0024 東京都大田区中央6-30-1
株式会社ウメタ東京営業所
<http://www.umeta.co.jp>

お店



0120-10-3504

ばいおうえん
株式会社梅翁園東京直売店

営業時間: AM10:00~PM5:00 お休み: 土・日曜日 祝日



郷土の自然を守り、歩み続けた奇跡の40年

松本 貢（みなべ町清川 在住） 1981(昭和56)年卒

私は昭和37年生まれで今年60歳を迎えます。出身はみなべ町清川地区で、南部高校を卒業した後も地元の森林組合に就職し、以来42年間仕事も変えずに地元みなべ町で暮らしています。後1年で定年を迎えますが、今後も体力が続く限り地元みなべ町で地域に役立つボランティア活動が出来たらいいなと思っています。

私はこれまで地元の森林組合一筋で頑張ってきましたが、思い起こせば苦労の連続でした。みなべ町を管轄とするみなべ川森林組合は組合員数が730名もあり、その割に職員が少なく、組合員が所有する約7,000ヘクタールの森林を僅か3人の職員で支えています。大変厳しい状況下の中で、みなべ町の森林を守っているのですが、無理をせず自分達の器に合わせた地域性や独自性を生かした特殊な事業活動を行っています。



紀州備長炭振興館



その一つがこの町の特産品「紀州備長炭」です。今から30年前の平成3年、合併前の南部川村だった当時の村長、山田五良氏が地元の伝統産業である紀州備長炭を復活させようと、清川地内に「紀州備長炭振興館」を建設し、森林組合が指定管理者として管内の管理を任されたのです。それと同時に訪れる観光客向けの備長炭商品開発にも力を入れ、また地元製炭者からの協力を得ることが出来、備長炭を供給して頂くことで、紀州備長炭の販売事業がスタートしました。

これまで紀州備長炭は高級燃料として永年人気を集めていましたが、私は新たな可能性を感じ燃料以外の需要を増やそうと研究を重ね、浄水用や空気清浄、癒やしグッズやインテリア等様々な新商品を開発し、新たな備長炭ブームの切っ掛けを作ることになりました。

この人気が年々加速し始め、平成10年には東京銀座1丁目にある自社ビル内で紀州備長炭の専門店をオープンしたいので協力して欲しいという相談を持ちかけられました。

その専門店は燃料用ではなく、オブジェとかアクセサリーとか外国人や女性向けの装飾品を販売することを目的としており、「備長炭ほどのきれいな輝きは他にない。」という当時社長の強い熱意に胸を打たれ、我々は全面的に協力することを決めました。

その専門店の名は銀座掌（GINZA TANAGOKORO）と呼び、平成11年にオープンし22年経った今も東京の中心地でみなべ町の紀州備長炭が輝かしい光を放ち続けています。（*店舗については下記参照）



銀座掌



更に最近になって起こった奇跡は、平成27年にみなべ田辺地域の梅と備長炭の産業が世界農業遺産に認定されたことです。

これまで日本一の生産量を誇る南高梅だけが注目されていましたが、今回の認定に当たり最も評価された点は、梅の栽培がここまで安定的に継続されてきたのは、栽培地を取り巻くウバメガシ等の環境林が永年製炭士達に守られてきた事が大きなポイントとなりました。

その反響で最近みなべ町では住民参加型のウバメガシ植栽活動も盛んとなり、毎年梅畑の放棄園を中心に森の再生活動が行われています。

どうか皆様も今後のみなべ町の環境保全活動を暖かく見守ってください。



ウバメガシ植栽活動



*銀座掌 東京都中央区銀座1-8-15
<https://www.tanagokoro.com>

ミニ・ギャラリー

南部高校美術部員の展覧会での入選作品をご覧ください

～ 2021年度 ～



「道成寺」 藤 由依
第67回御坊市美術展覧会 知事賞



「思春期」 切本 優希
第75回和歌山県美術展覧会 優秀賞



「ウェーブ」 井戸 峡介
第41回近畿高等学校総合文化祭滋賀大会奨励賞



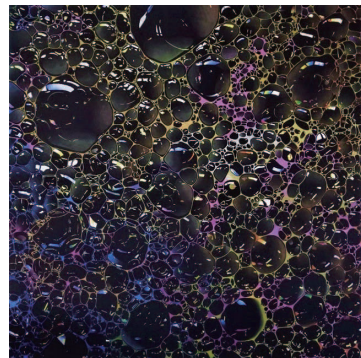
「七変化」 松本桃奈
第67回御坊市美術展覧会
中央公民館長賞

～ 2017年度 ～



「鉄体魚Ⅳ」 真砂 拓馬
第70回和歌山県美術展覧会 優秀賞

～ 2016年度 ～



「すべては水の泡じゃない。」 調子 ちえ
世紀のダヴィンチをさがせ高校生アートコンペティション 優秀賞

～ 2020年度 ～



「Wander Remains 彷徨う遺跡」

栗山 潤也

第66回田辺市美術展 市長賞

第44回全国高校総合文化祭高知大会文化連盟賞



「家路」 河本 俊介

第44回全国高校総合文化祭高知大会 文化連盟賞



「龍神地鶏」 前田 なおみ

第67回御坊市美術展覧会 中央公民館長賞

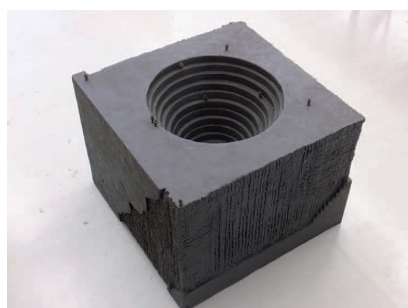
～ 2019年度 ～



「I 缶 do It」

岡本 英里香

第64回御坊市美術展覧会市長賞



「a hole」 海野 愛理

世紀のダヴィンチをさがせ高校生

アートコンペティション 審査員特別賞



「MELT」 谷口 万桜

第19回佐藤太清賞公募美術展 入選

第10回南高学友会東京支部総会・懇親会の開催を延期

昨年開催予定であった総会・懇親会を延期し、今年の7月に開催を予定していましたが、「新型コロナウイルス」の感染拡大とその収束がなかなか見えません。皆様のご健康と感染予防を第一として、今年秋（10月30日予定）に延期することにしました。今後コロナウイルスの状況を見ながら、開催につき判断し、後日ご案内状をお送りします。

会計報告

◇ 第9期(平成31年4月～令和3年3月)会計報告

単位:円

収入の部		支出の部	
前期繰越金	151,187	預り会費当期分振替	2,000
当期賛助会費	296,000	総会懇親会費	220,512
賛助会費預り分	2,000	役員会議費	48,209
総会懇親会費	232,000	広報会議費	20,019
広告掲載料受入	90,000	会報発行費	140,000
本部支援金	60,000	事務用品費	55,387
御祝儀・寄付金	88,000	レクリエーション活動費	11,548
受取利息	0	通信費	119,361
雑収入	0	交通費	0
		慶弔見舞金	0
		雑費	297
		次期繰越金	301,854
合 計	919,187	合 計	919,187

◇ 第10期(令和3年4月～令和5年3月)予算計画

単位:円

収入の部		支出の部	
前期繰越金	301,854	総会懇親会費	320,000
当期賛助会費	300,000	役員会議費	60,000
賛助会費預り分	0	広報会議費	30,000
総会懇親会費	240,000	会報発行費	150,000
広告掲載料受入	100,000	事務用品費	40,000
本部支援金	60,000	レクリエーション活動費	40,000
御祝儀・寄付金	0	通信費	130,000
受取利息	0	交通費	20,000
雑収入	0	慶弔見舞金	20,000
		雑費	60,000
		次期繰越金	131,854
合 計	1,001,854	合 計	1,001,854

役員改選

第9期役員の任期は令和3年3月末迄でしたが、総会開催が延期となったため特例として継続して就任していただいています。第10回総会開催まで現状のままとします。

事務局から

竹中 美晴 ・ 岩本 喜直 ・ 坂本 龍

上記の方々からご寄付をいただきました。(敬称略)
心よりお礼申し上げます。
会のために有効に運用させていただきます。

ご寄付
ありがとう
ございました



▼ 訃報 ▼

昨年1月 浜田 康敬様 がご逝去されました。
長年東京支部のためにご協力いただき感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。 合掌

編集後記

新型コロナウイルスの予想外の長期にわたる影響で、学友会東京支部だよりの発行ができるのか心配しましたが、予定通りに発行することができました。
これも快く原稿依頼に応じていただいた南部高校神藤校長、会員の皆様と編集印刷担当の皆様のおかげです。深く感謝申し上げます。
一昨年初めに発生した新型コロナウイルスの世界中への拡散で多くの人が感染し、平穏な日常生活が奪われました。今まで出来た学友会総会・懇親会、春と秋の散策を中止せざるを得なくなりました。私たち皆が日常生活に大いに不便さを感じていますが、その様な中で、趣味や今までやりたくてもできなかったことに取り組む等で新たな楽しみ、生活の張りを見つけ、コロナと共生する方法を考えたいと思います。
しかしながら、一日も早いコロナ終息宣言が出ることを切に願います。
会員の皆様は高齢の方が多いのでどうか感染予防には十分注意していただきお元気にお過ごしください。

(事務局 楠本)

編集スタッフ



楠本 邦一 (TEL・FAX 047-341-9282) 齋藤 文子 神田 典子 森下 武子 三本 陽子